

1 趣 旨

みやぎ森と緑の県民条例（平成30年宮城県条例第1号）第27条の規定に基づき、令和6年度の施策の実施状況等について、議会に報告するとともに県民に公表するに当たり、概要を報告するもの。

2 政策推進の基本方向と12の取組

（1）政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

- 取組1 県産木材の生産流通改革
- 取組2 県産木材の需要創出とシェア拡大
- 取組3 持続可能な林業経営の推進

（2）政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

- 取組4 資源の循環利用を通じた森林の整備
- 取組5 多様性に富む健全な森林づくりの推進
- 取組6 自然災害に強い県土の保全対策

（3）政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

- 取組7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成
- 取組8 地域・産業間の連携による地域産業の育成
- 取組9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良
- 取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

（4）政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

- 取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興
- 取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

3 5つの重点プロジェクト

- （1）新たな素材需給システムと木材需要創出
～年間生産70万m³への挑戦～
- （2）主伐・再造林による資源の循環利用
- （3）経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保
- （4）地域・産業間連携による地域資源の活用
- （5）海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

4 報告・公表のスケジュール

議会への報告：9月定例会に提出予定

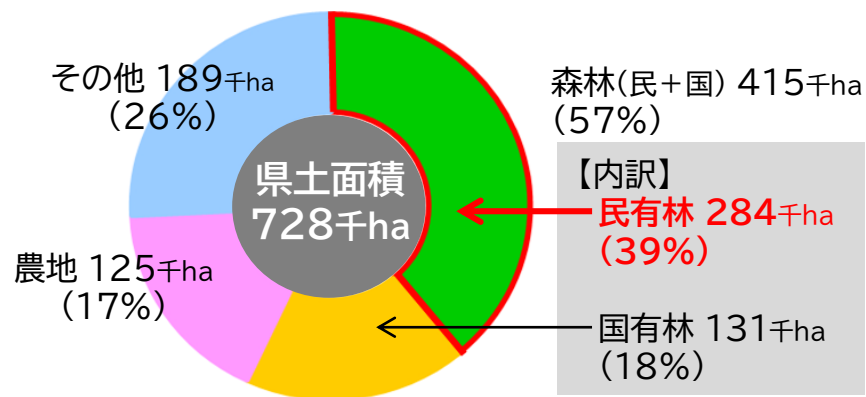
県民への公表：令和7年10月上旬に県ホームページに
掲載予定



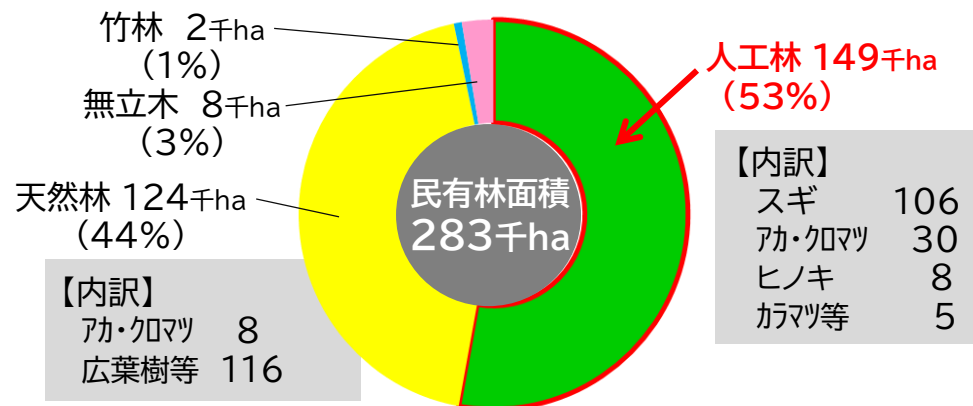
第48回全国育樹祭イメージソング
『緑のたましい』は、こちらから視聴できます
(Made With Suno)

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(1) 宮城県の土地利用の現況



(2) 地域森林計画対象民有林の樹種別面積

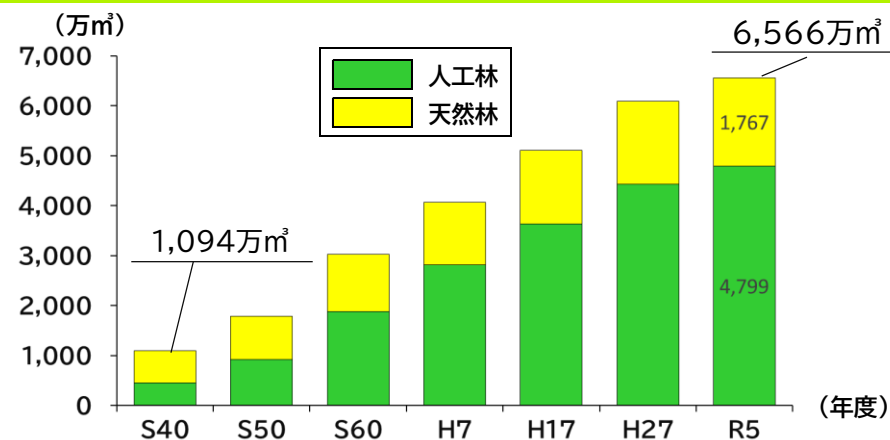


※地域森林計画対象民有林であるため、(1)の民有林面積と一致しない。



▲ みやぎの森林

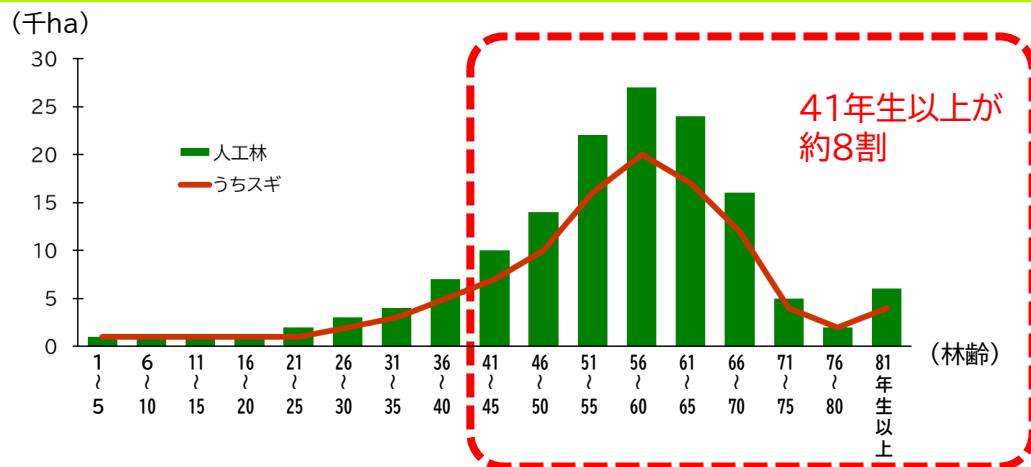
(3) 民有林の材積の推移



森林の材積は年々増加し、昭和40年度の約6倍となっている。

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(4) 人工林（民有林）の林齢別面積

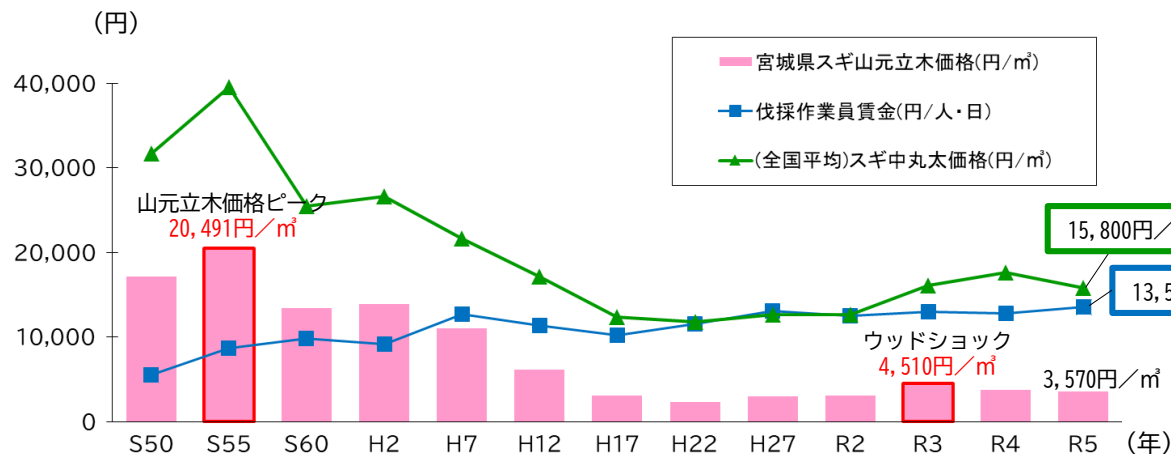


戦後植栽された人工林が、本格的な収穫時期を迎えている。



◀ 収穫時期を迎えた
スギ人工林

(5) 山元立木価格の推移

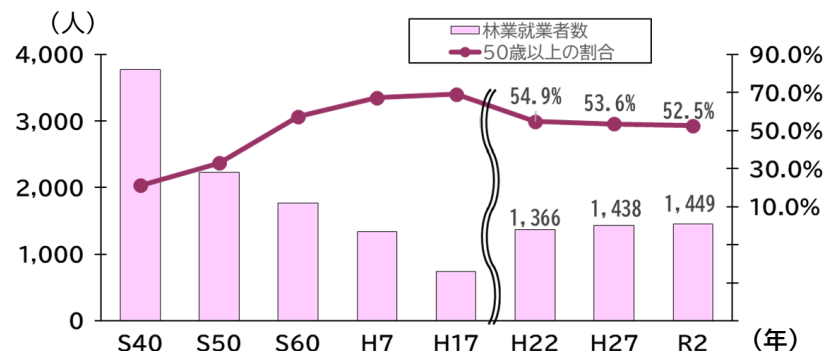


山元立木価格は昭和55年以降長期的に低下し、近年では、昭和55年のピークの約1/6となっている。

令和3年においては、ウッドショック等の影響により一時、山元立木価格が上昇したが、その反動で令和4年、さらに令和5年と下降している。

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(6) 林業就業者数の推移

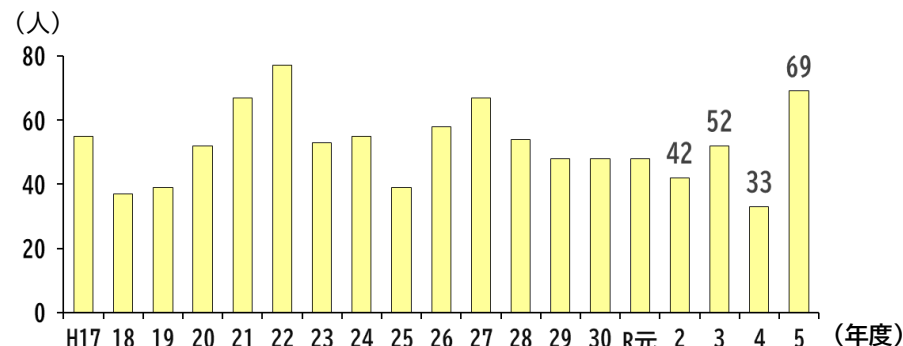


資料：国勢調査（総務省）

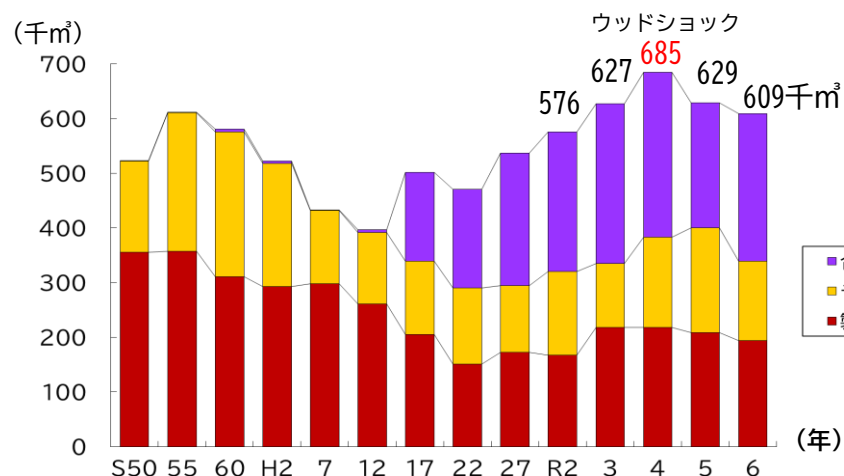
注：平成19年の「日本標準産業分類」の改定により、平成22年以降のデータは、平成17年までのデータと連続していない。

県内の林業就業者数は横ばい傾向にあり、新規林業就業者数は、人材確保に向けた取組等により令和5年度は伸びている。

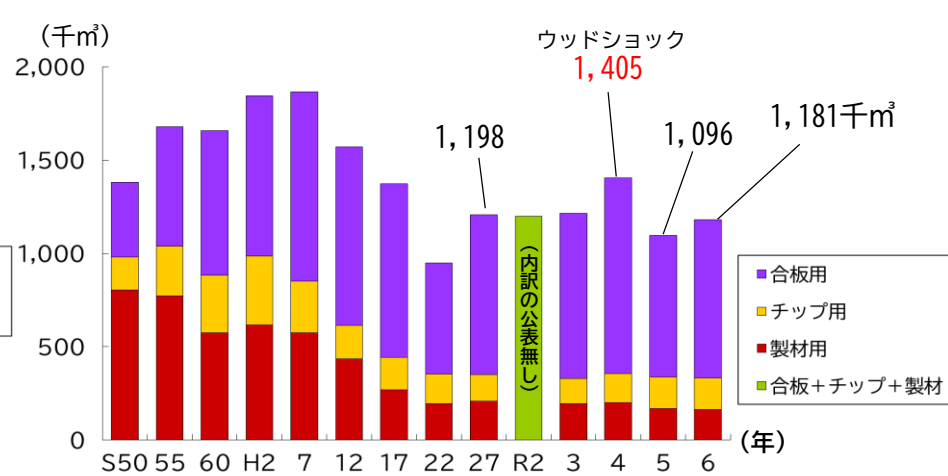
(7) 新規林業就業者数の推移



(8) 素材生産量



(9) 素材需要量



県内の素材生産量はウッドショックの影響による一時的な増減はあるが、素材需要量の半分程度に留まっている。

■主な施策の実施状況

①素材生産性を向上させる基盤整備（取組1）

川上側の高性能林業機械等の導入や、川中・下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備を支援した。【本文3頁】



合板・単板加工施設装置

②計画的な路網整備の推進（取組1）

効率的な林業経営や森林の適正な維持管理等を図るため、林道等の整備を推進した。【本文3頁】



林道「内ノ目線」橋梁の老朽化対策

③県産木材の利用拡大（取組2）

C L T等を活用した建築物や、県産材を使った木造住宅などの建築や内装木質化等を支援した。【本文6・7頁】



県産材を使用した木造住宅や内装

④森林経営管理制度の推進（取組3）

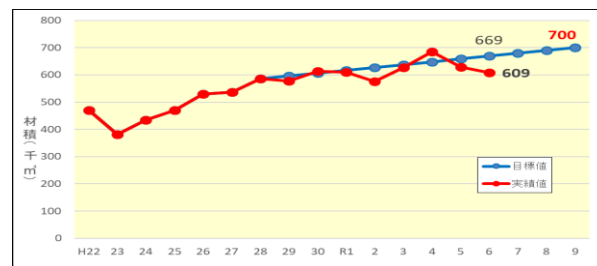
宮城県市町村森林経営管理サポートセンターと連携し、市町村への伴走型支援を拡充して実施した。【本文10頁】



計画策定のための森林調査研修の実施

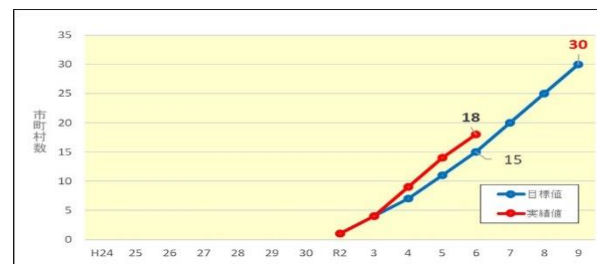
■主な目標指標の達成状況

◎素材生産量【年間】



ウッドショックの影響により、一時増加した素材生産量は、令和5年度に減少し、令和6年度もさらに減少し、目標値を下回った。

◎経営管理権集積計画策定市町村数【累計】



圏域推進会議等における市町村との情報共有に加え、経営管理権集積計画の策定に向けた伴走型支援等を行ったことにより、目標値を上回った。

■主な施策の実施状況

①効率的な間伐等の推進（取組4）

森林の公益的な機能の高度発揮のほか、安定的な木材供給のため、各種補助事業により間伐等を支援した。【本文13頁】



高性能林業機械を用いた間伐材生産

②主伐・再造林の推進（取組4）

再造林の推進とともに、造林コスト低減のため、伐採と造林の一貫作業システムの普及等に取り組んだ。【本文14頁】



再造林された山林

③松くい虫被害対策と松林景観の保全（取組5）

特別名勝「松島」等の重要な松林を守るため各種防除対策とともに、被害跡地において抵抗性マツの植栽等を行い、景観向上対策を実施した。【本文18頁】



ヘリコプターによる被害材の搬出

④山地災害危険地区の計画的な整備（取組6）

防災・減災、国土強靱化対策を進めるため、山地災害危険地区等における治山対策を計画的に推進した。

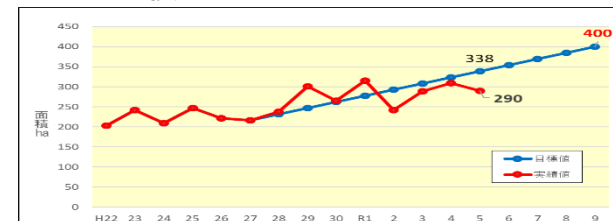
【本文21頁】



国土強靱化対策による治山施設

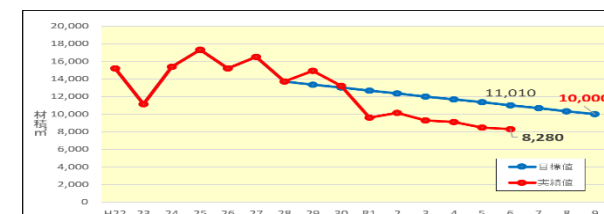
■主な目標指標の達成状況

◎植栽面積【年間】



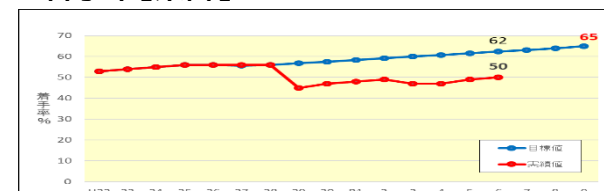
各種補助事業の活用等により、再造林の推進を図ったが、目標値を下回った。

◎松くい虫被害による枯損木量【年間】



薬剤散布等の予防対策や、駆除対策の継続的な実施により、枯損木量は減少傾向にある。

◎山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率【累計】



着手率は50%であり、目標値の8割程度となっている。

■主な施策の実施状況

①就業環境の改善・人材育成の強化（取組7）

みやぎ森林・林業未来創造カレッジにおいて各種研修を実施したほか、林業技術総合センターにハーバスタシミュレーターを導入し、人材育成の充実を図った。【本文24・25頁】



シミュレーターを操作する様子

③新たな技術の開発・改良（取組9）

県民等のニーズを把握しながら、花粉症対策スギの開発や生産拡大、県産材による超厚合板及びきのこ品種の開発等に係る試験研究を実施した。【本文30頁】



無花粉スギの開発



きのこ新品種の開発

②地域・産業間の連携等（取組8）

特用林産物の収益向上に向けた支援や、県内の醸造元と林業・木材産業のマッチングに取り組み、木づかい文化を広く発信した。【本文28頁】



県産スギ木桶の納入式

④県民理解の醸成（取組10）

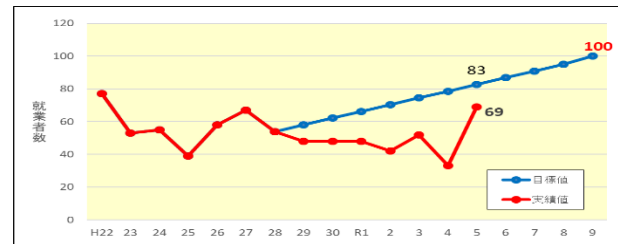
森林インストラクターの養成や全国育樹祭関連イベントでの植樹活動等を通じ、森林・林業や木材等に対する県民の理解を醸成した。【本文33頁】



育樹祭プレイベントの植樹祭

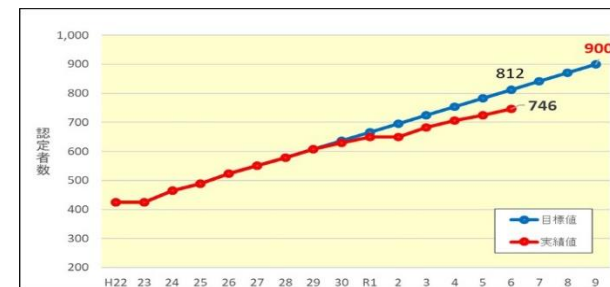
■主な目標指標の達成状況

◎新規林業就業者数〔年間〕



継続した人材確保などの取組により、令和5年度は大きく増加したが、依然として目標値を下回っている。

◎宮城県森林インストラクター認定者数〔累積〕



令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大防止対策として募集を中止した影響があるが、毎年認定者数を増やし、令和6年度は目標値の9割程度となっている。

■主な施策の実施状況

①復旧した海岸防災林の適切な維持管理・交流人口の拡大（取組11・取組12）

植栽が完了した海岸防災林において保育管理を行ったほか、震災の教訓伝承と交流人口の拡大を図るため、バスツアーやワークショップを開催した。【本文36、40頁】



保育施業の実施状況



ツアーでの保育体験

②放射能汚染問題への対応（取組11）

特用林産物の出荷制限解除や生産拡大に向け、放射性物質検査の徹底や生産資材の購入支援等を実施した。【本文36、37頁】



野外で栽培管理された原木しいたけの生産現場

③特用林産物の新たな販路や需要の開拓（取組11）

特用林産振興会と連携し、料理教室や販売会の開催等を通じて、特用林産物のPR活動を実施した。【本文37頁】



山の幸販売会の開催

④森林認証を核とした地域振興の推進（取組12）

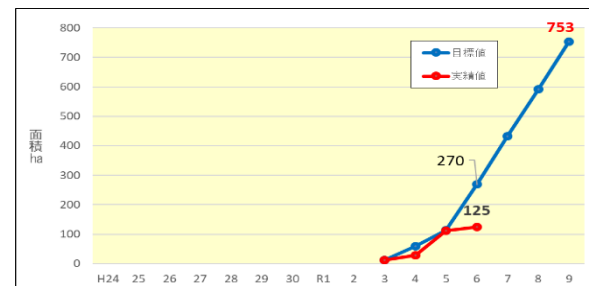
持続可能な森林経営を目指し、森林認証の取得や、認証材のPR活動等を支援した。【本文40頁】



各種イベントでのPR活動

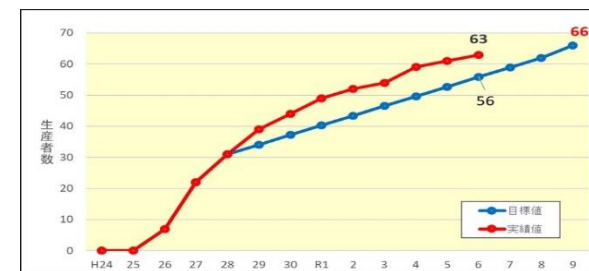
■主な目標指標の達成状況

◎海岸防災林の保育管理面積【累計】



植栽後の成長が遅れている林分も多く、現地の生育状況に応じて実施しているため、目標値に達しなかった。

◎原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数【累計】



栽培管理指導や原木購入支援等により出荷制限の解除を進めており、目標値を上回っている。

5つの重点プロジェクト

プロジェクト1 新たな素材需給システムと木材需要創出

新たな木材需要の創出に向け、CLTを活用した製品の開発や建築支援等を行ったほか、スギ原木等の輸出を実施した。また、有用広葉樹の流通拡大のため、広葉樹製品のPRパンフレットの作成等を行った。



広葉樹製品
PRパンフレット



←WEB版はこちら

取組事例：気仙沼港から中国に向けたスギ原木等の輸出
物価高騰による住宅需要の減退や、県内の合板・製材工場等の原木受入制限の影響により各地の山林で行き場のなくなった丸太が滞留したことから、気仙沼港から中国に向けてスギ原木の輸出が令和5年度から始まり、令和6年度は約2万8千 m^3 (計7回)が輸出されました。また、県内の製材所では、米国に向けて、フェンス材やデッキ材等の製品輸出を行っています。今後の人口減少による国内市場の縮小も見据え、新たな販路として海外への輸出拡大について、関係者と連携しながら引き続き取り組んでいきます。



気仙沼港の木材輸出状況

プロジェクト2 主伐・再造林による資源の循環利用

森林資源の循環利用に向け、新たな手法による再造林の省力化や低コスト化の実践を支援したほか、花粉発生源対策として、花粉の少ない苗木への植え替え等への支援により、再造林の推進を図った。



低コスト再造林の実践
(一貫作業での機械地
拵えの様子)

取組事例：花粉発生源削減を目指した再造林

社会的に大きな問題となっている花粉症発生源対策として、花粉の少ない苗木の普及に取り組んでおり、令和6年度は、花粉の少ないスギ苗木が27ha植栽されました。また、林業技術総合センターでは、花粉の少ない苗木の生産体制の強化を図るとともに、無花粉スギの開発にも取り組んでいます。今後も再造林の推進と併せて花粉症発生源対策にも取り組み、将来の森林資源の確保に努めていきます。



少花粉スギの植栽状況

5つの重点プロジェクト

プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保

「みやぎ森林・林業未来創造機構」を中心に、人材確保に向けて、就業環境の向上や林業のPR等に取り組んだほか、同機構が運営するカレッジにおいて各種研修を実施した。

取組事例：プロモーション動画の作成と配信

林業担い手の確保に向け、県内の事業体が職業としての林業の現場とその魅力について伝えるPR動画を作成しました。動画は、みやぎ森林・林業未来創造カレッジのホームページやYouTube等のSNSを活用して配信しています。



←動画はこちらから

プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用

森林認証材の普及PRや、県産きのこの魅力発信に向けた料理教室や販売会を開催したほか、県産CLT等を活用した新たな観光施設の建築支援等を行った。

取組事例：県産CLT等を活用した観光施設の整備

おながわ海岸広場に、県産材のCLT等を活用したキャビン（休憩施設）が建設され、新たな安らぎの場となっています。周辺からも目を引く五角形のデザインで、CLTパネルを使用することにより、その自由な造形が実現されています。



CLTを使用したキャビン

プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

みやぎグリーンコーストプロジェクトの取組として、海岸防災林の重要性等を普及啓発するバスツアーやワークショップの開催のほか、J-クレジットの創出に向けた取組を支援した。

取組事例：海岸防災林バスツアーの開催

海岸防災林の保育体験と沿岸地域の魅力に触れる「森林ボランティア+沿岸エリア観光モニターバスツアー」を開催し、63人が参加しました。海岸防災林の重要性を知る機会として参加者からも好評なことから、今後もこうした取組を継続し、人々に親しまれ、若い世代に将来にわたって活動してもらえる海岸防災林を目指していきます。



バスツアーの開催